



会報の発刊にあたって



会長 中川可能作
金沢龍馬会会長の中川です。
このたび会報発刊の運びとなり
皆さまと共にお慶び申し上げます。
龍馬の志をしのび、日本の、あ
るいは自分の周りの行く末、来し
方に思いを致すことがこの会の真
髓だと確信しています。

そうした意味で、同志、相集い、切磋琢磨しな
がら勉強し友情をはぐくむことは大変有意義と思
いますが、しかし、それは苦痛や苦闘を伴うもの
であっては、そもそも長続きしません。

そこで「**楽しみながら人間を磨こう**」をモット
ーにしたいと皆さんに訴えたいのです。このため
の運営を互いに協力しながら打ち建てていきまし
ょう。具体的には年4回の例会を講師、会員とも
に談論風発、有意義なものにして行きたいと提案
したいのです。

そもそも人間は、何らかの組織に何らかのつな
がりをもとに求めるものである筈だからであり
ましょう。

それにしても、「龍馬おたく」みたいなものは感
心しません。彼にまつわる昔の些末な出来事を、
半ば自慢げに語る人がいるが「木を見て山を見ず」
となることを憂うのです。

それより私は、龍馬がランドデザインをした
「明治維新の意義」を再認識したいのです。

明治維新こそ、日本の近現代を規定したと考
えるからであります。そして「まともな歴史観」を
お互いに真剣に考えて行こうじゃありませんか。

今一度皆さんに呼びかけたい！
「楽しみながら人間を磨こう」をモットーに前進
したいと皆さんに訴えたいのです。

以上簡単ながら会報の発刊に寄せる想いをした
ためました。

【新年会のお知らせ】

日 時：1月31日(土) 15:00~18:00

場 所：桜はなび (金沢市本町 1-3-32)

TEL：076-221-8100

<http://sakurahanabi.jp/>

講 演：中川可能作 金沢龍馬会会長
親睦会：参加費：3,000円
参加申し込み：金沢龍馬会 吉田信夫 事務局長
携帯：080-5600-1113

メール：jitianxinfu@hotmail.com

《第26回全国龍馬ファン横浜大会の 集いのお知らせ》

全国龍馬ファンの集いのめ切が迫っています。

日 時：10月18日(土) 12:45~

会 場：横浜大さん橋ホール

交流会：同日 18:30~

会 場：パシフィコ横浜 屋外特設会場

<http://www.pacifico.co.jp/>

参加費：大会は無料、交流会は7,000円

エクスカージョン：翌日の10月19日(日)

にはエクスカージョン有り。 **(有料)**

今のところ金沢龍馬会から会員の皆様が参加さ
れる予定です。楽しいひと時を過ごしましょう。

【会 員 の つぶやき】 “衝撃だった「龍馬がゆく」”

小屋忠男



昭和34年(1959年)にN
HK金沢放送局に入局して放送部
に配属されたのは「テレビニュース
の映像編集」でした。テレビ放送が
始まって間もない頃でした。

それから9年後、明治百周年を記
念して昭和43年(1968年)
NHK大河ドラマ「龍馬がゆく」が一年間にわた
って放送された。

この司馬遼太郎原作の血沸き躍るような展開の
ドラマに若い小屋青年は完全に魅了されたのです。

近代日本の扉を大きく開いた主演北大路欣也の
坂本龍馬の生涯を描いた作品に「我こそは龍馬の
如く生きよう!」の決意を固めたものでした。

モノクロ作品ながらこの大河ドラマの影響は深
く大きくその後の「龍馬伝」をも楽しみながら視
聴できました。

司馬遼太郎曰く「小説を書きながら、生き生き
とした青春を龍馬に感じた。とにかく龍馬は男も

女も惚れる男ですよ」

越前まで来た龍馬ではあり残念ながら金沢には来なかったけれど、その「駆け抜けた青春の生き様」は男女を問わず大きな共感を呼び金沢龍馬会の会員である事に誇りを持っている現在です。

こんな私が今「金沢龍馬会」の編集のお手伝いも少しさせて貰っています。嬉しいかぎりです。

少年時代、新聞記者を夢見、「龍馬のように！」を思った一人としては何とも楽しく面白い。

後期高齢者の75歳を過ぎたけれど、この編集のお手伝いを通して、これまでのお付き合いに深く感謝し、金沢龍馬会20周年へ向けて頑張ろうと思っている今日このごろです。

まるわかり「龍馬入門講座」①



これは2010年NHKテレビで放映された大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介するため長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントです。今回連載に際し吉田が若干編集しました。(本掲載は金沢龍馬会内部のみです)

①無名の浪人である坂本龍馬は時代の表舞台に躍り出て、歴史を動かす原動力となり、幕末動乱の時代を駆け抜けた風雲児です。

彼の行動力・常識にとらわれない発想力に日本国中多くの人が魅了されています。

②坂本龍馬とは、どういう人物か？日本史の中で、一二を争う人気の有名人です。幕末の動乱の時代を駆け抜けていった人物の中で、かつては上野の「西郷どん」がNo.1でしたが、戦後は若者に支持される「坂本龍馬」がトップの座につきました。

それは、自由奔放に、既成の価値観や権威に捉われることなく、常に明日を目指した龍馬の生き方に共感し、若者たちが自分たちの生き方の理想像として支持したからと言えます。

③龍馬は、むしろ生前より死後に有名になった人物です。その最初は、明治16年(1883)、高知の「土陽新聞」に坂崎柴瀾が書いた「**汗血千里駒**」が掲載され、大評判になりました。小説の形をとっていますが龍馬の最初の評伝といっていでしょう。

④の龍馬ブームは、日露戦争時に、日本海海戦の直前に、龍馬が明治天皇の皇后の枕元に立ち、「日本海軍は絶対勝てます」と語ったと言い、皇后は、この人物を知らず、当時の宮内大臣：田中光顕が、龍馬の写真を見せたところ、間違いなくこの人物だと言うことになったと言われています。

⑤戦後は、司馬遼太郎の「竜馬がゆく」を初め、小説やドラマに度々取り上げられ、現在のブームを築きました。昭和の龍馬ファンは「竜馬がゆく」が原点であると言っても過言ではないでしょう。

死後150年近い今も人々に影響を与え続ける龍馬ですが、実像は謎が多いのです。龍馬の資料は少なく、解らないことが多いのです。

真偽のほどは別として、逸話も多く残されています。今日は普通一般的に語られている龍馬像を追うことにしましょう。「続く」(記：吉田信夫)

【全国龍馬社中

近畿・北陸ブロック会議」報告】

吉田事務局長

6月29日(日)滋賀県大津市にて近畿・北陸ブロック会議が開催されました。今回の主催は近江龍馬会で京都龍馬会がフォローし、近畿と北陸の各龍馬会代表が参集しました。

会議のあと、大津市内主要地を巡りました。京都伏見「寺田屋」女将お登勢の実家跡へ行き、近くの寺にある両親のお墓に詣でました。

江戸時代ここ大津は天領でした。金沢から京へ行くには、越前を通り、木の芽峠を超え、琵琶湖北端にあった加賀藩飛地「海津」から舟に乗り大津に着きます。京はすぐです。

【新入会員紹介】

北川優介さん 麻井紅仁子さん

【編集後記】

初めて金沢龍馬会会報を作り中川会長、吉田事務局長ら皆さまのご協力を頂き漸く第1号を皆さまにお届けすることが出来ました。これからも皆さまのご指導ご鞭撻をいただきながら楽しい会報作りを目指したいと思っています。(記：中田俊郎)

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：中川可能作

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎

090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.yomakai?sk=wall&filter=2>

